

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和5年3月17日

事業所名 児童発達支援センターひかり園

職員数：25名 配布数：16名 回収数：12名 割合：75%

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	11	1	自由遊びの時間は、遊びの拠点を分けてスペースの確保を図っている	・法令を遵守したスペースを確保しています。
	② 職員の配置数は適切であるか	9	3	利用定員に対して、基準以上の配置をしている。コロナで休む職員が重なると職員の負担が増えた。相談支援専門員の職員に応援を頼むなどの工夫を行なった。	・昨年度と同様、法令で必要とされる配置数に加え、臨時職員を2名、パート職員3名配置しています。専門性を高めるため研修会、部会等の派遣や関係機関との連携など業務量の増加に伴い、正規職員を増やす予定です。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	8	3	玄関に段差があり、バリアフリー化は難しい状態である。子どもの導線はわかりやすい空間になるよう、視覚的な手がかりも用いて環境設定を工夫している、	・園庭が2ヶ所あり、建物の構造上死角になる所もあるため、表園庭は乗り物遊び、裏園庭は砂遊びや総合遊具を使用して遊ぶなど全面的配慮をしながら環境設定をしています。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもの活動に合わせた空間となっているか	11	1	子どもが手に触れる物等は、消毒を徹底している。遊戯室は使用目的に応じパーテーションで区切り、子どもの特性に応じた支援ができるようにしている	職員体制が整った後、園庭2ヶ所開放し、子ども自身が遊びを選択し、やりたいことをたっぷり楽しめる環境になるように努めています。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	9	2	・外来会議やクラス会議など少人数の会議をもち幅広い意見を共有できるようにしている。	・クラス会議・リーダー会議・学習会等で支援内容の振り返りや見直し検討を行なっています。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	12		・避難訓練の状況がわかからないとの指摘があり、訓練日や避難訓練の状況をおたよりで報告しています。	・評価表を用いて保護者への意向の把握を行ない改善に繋げていきます。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	12			・自己評価結果を園のHPにて公開しています。 ・保護者及び事業所内の2者評価をとっています。第三者による外部評価については現在実施の予定はありませんが、必要に応じて実施を検討してまいります。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	10	2	外部評価ではありませんが、外部から講師を招いて子どもの支援のあり方や療育について見直す機会	

				をつくっている。		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	12	・対面では難しい為、web講演会を行なう。午前は保護者向け、午後は職員向けのテーマで学びあった。	・職種や経験に応じた研修に派遣し専門性を高めます。今年度は、主にオンライン研修に参加しました。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	12	・保護者との信頼関係を築きながら、生活全般を通して子ども理解を深めている。ケース担当者だけでなく、職員間で情報共有し検討している。懇談等でアセスメントを行ない、保護者の思いを聴取し計画に反映。	・前期・後期とアセスメントやモニタリングを行ない、児童発達支援計画を作成しています。クラス会議の時間が十分にとれるように調整していくことが課題です。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	11	1	【療育アセスメント】で子どもの状態像や変化を把握できるようにしている（前期・後期に作成）	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	12			・障害児支援利用計画やアセスメントした情報をもとに課題整理を行ない、【身辺自立】【からだ・運動（粗大・微細）】【言葉・対人関係】【遊び】の項目に沿い具体的な短期目標や支援内容を検討後、作成しています。家庭支援についても具体的な内容を明記しています
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	12		計画に沿いながら、月案で活動内容を具体化している	・活動内容については、年間療育目標、前期・後期の支援目標に沿い、リーダー会議、クラス会議、年長会議とそれぞれクラスの枠を超え全職員で意見を出し合い、活動プログラムを立てています。年長児の取り組みは、発達課題別に分けグループ集団による療育を行なっている。より子どもたちのニーズに応じた遊びの工夫や検討が必要であります。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか	12		クラス会議・リーダー会議で検討している	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	12		障害や特性に応じた支援や子どもの姿から活動内容を検討している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	12		状況に応じて個別対応が必要なときは支援している。活動内容に応じて多様な集団編成を行なう。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	12		朝礼時に職員体制を把握し、活動内容をクラス別に確認。日課の流れに沿い、職員の動きやその日のリーダー等役割を決めている	・朝礼で、活動内容や職員体制について確認、終礼で振り返り（ひれに沿い、職員の動きやその日のやりはつと等）し、職員間で情報共有を行なっています。また、会議（ケース・指導者会議等）で、
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	12		振り返りを毎回行うことは難しいが、関わりの困難さや気づきなどがあればクラス内でタイムリーに確認し話し合う。全職員、共通した支援に繋がるよう努めています	・クラス運営や子どもの評価、支援の在り方等について検し、充実した支援に繋がるよう努めています

					識すべき事項は、必ず会議以外にも終礼時に報告をする。	
	①9	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	11	1	活動内容や個々の子どもの姿を療育日誌に記録している。日誌やケース記録をもとに学期ごとに【療育のまとめ】として支援の検証を行ない次学期の支援内容に繋げている。	・療育日誌で記録したものをもとにクラスだよりや年長だより等を作成し、定期的に発行しています。保護者の方に支援のねらいや療育内容の今後の展開等についてお伝えし理解を得ています。
	②0	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	12		支援の見直しとして「あゆみ」(前期・後期)を作成し、保護者と子どもの成長や課題を共有し支援計画に繋げている	・前期・後期のモニタリングのひととして、「あゆみ」をもとに保護者との個別懇談実施し、子ども理解の共有しています。
関係機関や保護者との連携	②1	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	12			・相談支援専門員が、ケア会議等で課題を含め、情報共有している。
	②2	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や 関係機関と連携した支援を行っているか	12			・こども発達支援センターや障がい福祉課、ネウボラ課等と必要に応じて情報共有や相談、報告を行ない適切な支援を行なえるよう努めています。
	②3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか				
	②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				
	②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	12		移行後も、集団適応の難しさや生活の困り感が出た場合は、ケア会議を行ない、対応について検討する。	・移行がスムーズに行なわれ、充実し安定した生活がおくれるように子どもの特性や状態像について丁寧に伝え連携を行なっています。
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	11		子どもの特性や課題など支援について伝えている。引継ぎという形で行うことが多い	入園する児童についても、児童発達支援事業所等から引き継ぎを行ない、適切な支援に繋がります。集団適応が困難な場合、保育所等訪問支援事業に繋がります。
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	10	1	コロナ禍で研修機会は少ないが、関係機関や施設との情報共有する会議等には参加している	対面での研修会も少しずつ行なわれているため、連携や学習会に積極的に参加できる機会をつくっていきます。
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する	4	7	コロナ禍で今年度は交流の機会をつくるのが難しかった。	・近隣の保育所との連携や交流など今後検討していきたいと思いま

	機会があるか				す。
	⑳ (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	6	4	福山市障がい者総合支援協議会発達支援部会や療育相談支援事業に参加している	
	㉑ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	12		おたより等で随時、子どもの状況を伝えている。懇談や支援計画で課題や支援について伝え共通理解ができるようにしている	・クラスの活動の様子等についてはクラスだよりで伝え、我が子だけでなく、他児の育ちなども共有できるように発達を捉えた支援で伝えるようにしています。
	㉒ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	8	3		・家族支援プログラムについては職員の研修は継続していきませんが保護者に向けた学習会等をクラスごとで行ないました。
保護者への説明責任等	㉓ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	12			入園説明会で重要事項説明として伝えています。
	㉔ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	12			・全保護者に向けて、療育ガイドラインの中で、療育のねらいや内容について説明をしています。また、家庭訪問や懇談を設けて個別に説明をしています。
	㉕ 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	12		連絡帳でのやりとりや懇談などを通して適宜対応している。随時電話や個別懇談などで対応している。	・保護者同士が交流できる場として静養室を開放し、保護者会活動に利用されています。保護者会活動は保護者主体ではありますが、協力や支援はしています。
	㉖ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	12		コロナ禍で保護者会活動が縮小せざるを得なかった。	
	㉗ 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	11	1	ケース担当者だけの責任ではなく、相談事など返答に困ったときは他の職員に確認し、迅速に対応できるように努めている。	・気軽に相談できる信頼関係を構築しながら、子どもの育ちへの願いや子育ての不安や悩みを受け止められるようにタイムリーに話し合いができるように努めています
	㉘ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	12		園だより、クラスだより、週に1回のおたよりなどで、随時子どもの様子や園のことを伝えている。	・療育活動や行事のねらいをたよりに知らせ、保護者の方が見通しをもてるように工夫しています。ホームページで園の行事などの様子を伝えています。
	㉙ 個人情報の取扱いに十分注意しているか	12		注意している。特定しやすい情報は伏せている	・取り扱いについては、同意を得てから関係機関と連携しています。また、入園時に個人情報の取り扱いについて説明し、同意を得ています。

	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	12		ことばのみで伝えるのではなく視覚的な手がかりやマカトンサインなどを使っている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	7	2	招待ではないが、民生委員の方やボランティアとしてご協力いただいている	移転地の多治米学区の方に、行事や園について発信し、障害のある子どもたちの理解を広めていくことが大切です。
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	11			・火災を想定しての避難訓練を定期的実施し、「通報・避難・消火訓練」を消防士の指導のもと年に1回実施しています。(今年度は実
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	11		火災を想定しての避難訓練を定期的実施している。	地指導は受けていませんが、書面で報告、指導を得ています)・地域と連携し、防災訓練などの取り組んでいくことが課題です。
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	12		その子自身に対しての対応マニュアルをつくり、職員に周知している。	・新年度に調査票による園児の健康状態の把握をし、職員間で共有しています。
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	12			また、食物アレルギーに関しては・医師の指示書のもと除去食など対応しています。
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	12			・日々終礼時に「ひやりはつと」の確認をしています。具体的な対応策を検討し、事故防止意識を高めています。また安全点検日を定め、危険個所の改善に努めています。危険を予知し、事故に至らないように努めていきたいです。
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	10	2	身体拘束および不適切な行為などの事例をあげ、グループワークの中で、職員それぞれの意見を述べ合う機会をつくっている。	・年度はじめに「倫理要綱」の読み合わせなど職員としての心得などを確認し、支援姿勢について自ら考える機会にしています。 ・虐待防止啓発のための研修会に参加し、全職員学習の機会として研修報告を行なっています。研修の回数が少ないことが改善すべきことです。
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	12		「身体拘束・行動制限についてのガイドライン」で説明している。児童発達支援計画に記載し、保護者に同意を得ている。	・身体拘束について切迫性、非代替性、一時性であることを全職員周知し、やむを得ない状況であるかどうか、検証しています。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

